

助成事業実施報告書

団体名.....チャイルドラインたちかわ

代表者・役職名 氏名 代表 山中 ゆう子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願いします)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

子どもの電話から見える子どもの現状を伝え、大人の役割を考える

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2003年立川市の子どもの権利を考える市民委員会主催の「子どもの権利って何？」を聞いた有志が「チャイルドラインたちかわ」準備会を立ち上げ、2006年より常設電話を毎週日曜に開設。チャイルドライン電話カードを立川市、武蔵村山市、国立市の公立小中学校全生徒に毎年配布。電話受け手養成講座を隔年で開催。毎年活動報告書や市民公開講座で子どもの現状報告。会員31名

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

子どもは生きづらさを感じながら懸命に毎日を送っています。子どもは自分の辛さや苦しみ、不安を受け止め一緒に考えてくれ、自分で立ちあがる力を信じてくれる大人を求めています。チャイルドラインはそんな子どもの声に耳を傾け、子ども自身が気持ちを整理しながら自分なりの解決方法を見つける手助けをしたいと始めました。でも子どもの不安や悩みは大人の問題から生じていることが多いです。大人にこの現状を知ってもらい、子どもが幸せに暮らせる社会にいくためにできる大人の役割を公開講座をとおして一緒に考えたいと企画しました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

2015年度のチャイルドラインたちかわが受けた総受信数1065件のうち会話成立355件。全体の7割を占めるのが中高生男子からの電話です。性や身体に関わる内容のものが多く、身体の変化や性への興味が高まることに戸惑っているといった悩みが多く聴かれます。そこで今年度の市民向け公開講座は3回の予定を4回に増やし、第一回は子どもの「今」を知り、第二回目からは「性」を統一テーマとして開催しました。第一回「遊びのチカラ・子どもの「今」 講師：天野秀昭氏 第二回「性に寄り添うことの意味—若年ゲイ男性のライフストーリーを聴く— 講師：大島岳氏 第三回「子ども・青年たちと性」 講師：水野哲夫氏 第四回「子どもの権利の視点から性をトータルに考える」 講師：荒牧重人氏

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの「効果」 300文字程度まで

第一回～第四回まで合計参加者53名。この講座は会員のスキルアップを兼ねているので会員も参加しましたが、外部の方は合計16名でした。参加者のアンケートから第一回「情動を「遊育」されていない子どもの言葉にならない声を上から目線で受け止めていないか」第二回「性的マイノリティの方の調査報告から虐待やいじめが長期にわたって度重なる実態に驚き」「自分自身の中に少数派に対して偏見がないか反省」第三回「日本では思春期に正確な情報が与えられない。特に男子は教育されていない」第四回「子どもを有害な環境から守り保護される権利も子どもの権利」。参加者は厳しい環境で生活している子どもの実態をより深く知ることができ、自分ができることに取り組む気持ちを新たにしました。賛助会員も9名増えました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今回の市民公開講座は立川市内の学習館や立川市報、あいあい通信、子ども未来センターの協働プログラムによる呼びかけなどの広報を行いました。残念ながら参加目標を大きく下回ってしまいました。来年度は第8期新規受け手養成講座の開催の年なのでもっと工夫します。毎年、一年間の取り組みをまとめた活動報告書を作成し、子ども関係部署や講座参加者に配布していますが今年度から立川市、国立市、武蔵村山市、西東京市の公立小中学校全生徒にカード配布時に各学校にも配布し先生方に読んでもらえるようにしました。今後も多摩地域に子どもの声をきちんと受け止められる大人が増えていく取り組みを継続して取り組みます。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

「遊びのチカラ・ 子どもの“今”」

「子どもは本来、AKU(=危ない、汚い、うるさい、もの)です。」という天野さん。…なのに今の世の中、これを許さない。迷惑をかけない子どもこそが「良い子」となっていく怖さ。「AKU」のエネルギーに振り回され、悩んでいる母親や先生や子ども支援に関わる大人たち。もっと楽に子どもと向き合うことはできないの？

日本で最初のチャイルドラインを世田谷で立ち上げ、プレーパークのプレーリーダーとしても多くの子どもたちと関わってきた天野秀昭さんに、子どもの現状や私たちおとなへのメッセージを熱く語っていただきます。子育て中のお母さん、お父さん、そして、子どもの育ちに関わるすべての方に聞いていただきたいお話です。

●日時：2016年 **9月18日**(日)午後2時～4時

●場所：立川市女性総合センターアイム 5階 第三学習室

●講師：天野秀昭さん

(NPO 法人プレーパークせたがや理事)

●定員：先着30名(定員になり次第締め切ります。)

●参加費：500円(当日会場でお支払いください。)

●お申し込み：8月25日から受付開始

お名前・ご連絡先を明記し、下記いずれかの方法でお申し込みください。

FAXで 042-531-5927(山中宛て)

またはGメール：cl.tachikawa@gmail.com 宛にどうぞ

※戴いた個人情報はこの講座に伴う連絡以外には使用いたしません。

●主催：チャイルドラインたちかわ (真如苑助成事業)



「チャイルドラインは18歳までの子どもが主体となってかける子ども専用電話です。全国70団体のチャイルドラインが年間20万件もの子どもの声を受け止めています。」

2016 Shinjo プロジェクト チャイルドラインたちかわ

「子どもの電話から見える子どもの現状を伝え、大人の役割を考える」

第一回市民公開講座

開催日：2016年9月18日(日)

テーマ

「遊びの力・子どもの“今”」

講師

天野 秀昭氏

NPO 法人プレーパークせたがや
理事



第二回市民公開講座

開催日：2016年10月16日(日)

テーマ

「性に寄り添うことの意味
～若年ゲイ男性の

ライフストーリーを聴く～」

講師

大島 岳氏

一橋大学社会学研究科博士課程
NPO 法人 akta



第三回市民公開講座

開催日：2016年11月13日(日)

テーマ

「子ども・青年たちと性」

講師

水野 哲夫氏

“人間と性”教育研究協議会

代表幹事

一橋大学・白梅学園大学非常勤講師



第四回市民公開講座 開催日：2016年12月6日(火)

テーマ「子どもの権利の視点から性をトータルに考える」講師：荒牧 重人氏

第四回講座の写真はありません。